

## 四旬節第一主日

2010.2.21

申命記 26・4-10

ローマ 10・8-13

ルカ 4・1-13

今日四旬節第一の主日、今年も私たちは、このご復活祭に洗礼をお受けになることを決意された皆さんをお迎えして、洗礼志願者の皆さんの上に、神の特別な照らしと導きを祈り求めるために、ともにこのミサをささげ、その中で洗礼志願式を行います。四旬節は、洗礼の秘跡を受けて、神が与えてくださる恵みの中に新たに信仰の歩みを始めようとしておられる志願者の皆さんとともに、すでに洗礼の恵みの中で信仰の道を歩んで来た私たち共同体の全員が、それぞれの信仰の歩みを振り返り、一人ひとりの私たちの上に神が与えてくださっているカトリック信者としての信仰の恵みを再確認させていただく特別な恵みの時です。今日この洗礼志願式とともにあずかり、何よりもまず、私たち高円寺教会の神の民としての共同体に、同じ信仰の道を歩もうと願う洗礼志願者の皆さんをお迎えすることが出来とことを喜びのうちに、ともに感謝いたしましょう。私たちが生きるこのような現代の日本社会の中で、神を信じ、私たちの救い主イエス・キリストを信じ、その信仰をカトリックの教会の洗礼の秘跡を受けて公に言い表すことを願う人々が私たちの目の前にこうして与えられているということは、私たちが信じている神が今も私たちのうちに生きて、働いていてくださる力強いしるしです。

今日の第一朗読で聞いた申命記が語る、神の民をエジプトの地から導き出された神の導きは、時代を超えて、私たちをもカトリック信者としての新たな信仰の歩みへと導いてくださったのです。旧約聖書に語られている、イスラエルの民の歴史、中でも、今日の申命記において、そのことを思い起こし、約束の地の初物の実りをささげて神に感謝をささげるよう命じられている出エジプトの出来事は、キリスト教の信仰においては、私たちがいただいた洗礼の恵みを前もって象徴する、神の救いのみわざと受け止められています。神を知らない、神を度外視した生き方から、神を信じ、神を根底に置いた新しい生き方へと、神によって導き出された者たち、あるいは導き入れられた者たちとして、私たちは洗礼の恵みによって、新たな神の民とされるのです。私たちが洗礼を受けてカトリックの信者となるということは、そのようなことであると、洗礼の秘跡をもって私たちがカトリックの信仰の中に招き入れてくれる、カトリックの教会は伝えて来たのです。私たちが受けるカトリックの教会の洗礼は、そのような神の恵みの秘跡として私たちに授けられるのです。

洗礼を受けてカトリックの信者となっても、私たちの日常を取り巻く環境は変わることはありません。私たちの日常生活の次元では、苦しみに満ちたエジプトの奴隷状態から解放された聖書の中の神の民のように、私たちの感覚をもって解放の喜びを味わうことは難しいかもしれません。けれども、洗礼が開くカトリックの信者としての信仰を生きる時、私たちは神の愛を信じる者として、神の愛をこの身に注がれ、自分のこれまでの生き方がつむぎ出してきた自己矛盾の全て、その罪の全てを覆われ、新たに神の愛のいのちを生きる、神の子らとされるのです。洗礼の喜びの中でこの神の恵みをしっかりと受け止めることが出来た時、日常の制約の中に身を置きつつ、新たな世界に向かって解き放たれて行くのです。

洗礼によって開かれる、神を視野の中に収めた、信仰者としての生きる新たな世界がどのようなものであるのか、今日の福音は、ヨルダン川で洗礼を受けたイエスが、神の霊に導かれて過ごされた四十日の荒れ野のお姿をもって示しています。あの荒れ野でイエスは悪魔の誘惑を受けます。聖書が語る悪魔とは、今日の物語の中で、悪魔自身の口から宣言されているように、この世界を支配する、目に見えない霊の力です。それは、この世的な価値観をもって私たちに支配するこの世的な精神の権化と言ってもいいかもしれません。

今日の福音が提示する悪魔の誘惑は三つです。その第一は、この世における私たちの生活を脅かす、生活の不安です。イエス・キリストを信じ、イエス・キリストが指し示してくださる、父なる神の愛のもとに生きる私たちの新たな世界は、パンのためだけに生きる、せちがらいこの世の生き方から私たちの心を解き放つ、もっと大らかな世界です。生きてゆくためになくてはならない、物質的、経済的条件を超えたところに、なお人間として生きてゆくために必要な、より高い目標があることを、イエスは私たちに示してくださるのです。たとえ貧しくともたとえ飢えに悩まされることがあっても、イエスがそうされたように、神の愛のうちに生きる神の子らとして、神から注がれている愛をもって互いに支えあい、神と隣人との絆を見失うことなく生きる、新たな目標を与えられたいのちの世界を生きるのです。それによって、私たちはパンの争奪をめぐって繰り広げられる、競争社会の原理から解放され、この世界を支配する巨大な悪の霊の支配から解き放たれるのです。

第二の誘惑もまた、第一の誘惑と通じるものです。脱ぎ捨てたはずの古い世界の生き方への誘惑は、依然として私たちの中に生き続けます。私たちの人生の目標は、多くの場合、この世の霊が約束する社会的地位と豊かな暮らしに向けられています。この世の権力と繁栄への誘惑をもって、この世を支配する霊は私たちに虜にします。それこそが、私たちが生きてきた、そして今も生きている神なき社会の実相です。それが私たちの人間として心を窒息させる、競争社会、格差社

会を生み出すのです。そのようにして、今もこの世の支配者である悪の霊は、神が与えてくださった、神の愛の世界を毒し続けているのです。

第三の誘惑は、この世における幸せだけを射程に入れた、従って、この世を支配する悪の霊が与える人生の目標をそのままにしておいて、この世を支配する霊が約束するのと同じことを神に求める生き方への誘惑です。私たちは神に何を期待しているのでしょうか。神を私たちの期待に応えるものとする事によって、私たちは私たちが信じる神を、悪の霊と同じものとしようとしてしまうのです。そのような神は、私たちを真実新しい世界に向けて解き放ってはくれません。

荒れ野の四十日間の誘惑を徹頭徹尾、神への信頼に満ちた信仰によって退けられたイエスの姿は、イエスの全生涯を貫く姿勢でもあります。そしてそのようなイエスの生涯は、「父よ、わたしの魂をみ手に委ねます」とのことばをもって十字架の上に死ぬことによって閉じられます。しかし、イエスのこの世におけるそのような人生の全ては、父なる神の大いなるいのちのうちに受け止められ、イエスの復活によって、イエスのそのような生き方こそが、私たちを真のいのちに導く生き方であることを示すものとなったのです。

洗礼によって私たちに与えられるのは、そのような神の子としてのイエスがもたらしてくださった、イエスの復活において示されている、この世界の真の創造主、支配者である、父なる神のいのちの世界です。洗礼によって私たちのうちに注ぎ込まれる、神のいのちの恵みの中で、イエスはその全生涯をもって私たちに示し、私たちを招いてくださっている神の子としてのいのちの世界を生きることが、私たちが受ける洗礼の意味であり、それによって私たちが生きはじめ、信仰の世界であるのです。今日洗礼に向けての決意を固め、私たちの中でそれを表明される洗礼志願者の皆さんとともに、私たちの前に開かれた、私たちが信仰によって受け入れたこのような新しい生き方へ向けての決意を、あらためてともに神の前に固めあいたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高